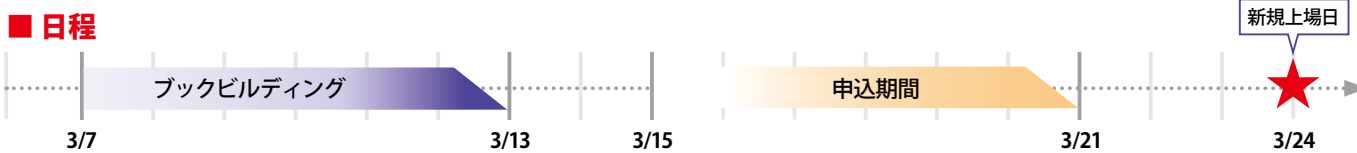


IPO銘柄 オロ (3983・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
3983	100株	公募: 100.00万株 売出: 15.00万株 (OA0.00万株)	1,930円~2,070円 (17.0倍)	野村証券



自社開発ERPパッケージとWebによるマーケティング支援が両輪

■ 事業内容

自社開発ERP (基幹系情報システム) パッケージソフトウェア「ZAC Enterprise」が主力。ビジネスソリューション事業とコミュニケーションデザイン事業があり、ビジネスソリューション事業では企業、組織における効率化、生産性向上などの業務課題を解決するソリューション、サービス提供を手掛ける。ERPパッケージ「ZAC Enterprise」と、その中小企業向け限定版である「Reforma PSA」のクラウド方式による提供がメイン。もう一方のコミュニケーションデザイン事業では、Webを活用して組織、企業のマーケティング全般を支援するウェブマーケティングと、WebサイトおよびWebシステムの企画、構築、運用を行うウェブインテグレーションの2ソリューションを提供する。16年12月期第3四半期累計 (16年1~9月) の売上高構成比はビジネスソリューション事業46.6%、コミュニケーションデザイン事業53.4%となっている。

■ 特徴

顧客は業種を問わず大企業が中心となっている。大規模Webサイト、Webシステムの運用にかかわってきた経験、ノウハウを生かしたオペレーションチームを国内外に配置し、顧客の状況に合わせて事業を進める。さらに、東南アジア、中国の連結子会社を活用し、海外進出支援、マーケティング支援、インバウンド集客支援なども手掛けている。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年12月期の連結経常利益は前期比5.9%減の6億6,400万円を見込む。「ZAC Enterprise」を中心に事業は確実に拡大するも、今後の事業拡大に向けた人員体制強化のための費用が利益面を圧迫する見込みにある。

■ 定性分析

減益見込みであることはネガティブだが、新興市場らしいビジネスモデルの企業で収益規模も相対的に大きい。大手証券が主幹事を務め、かつ上場メニューも売出しがオーバーアロットメントのみという、資金調達のためのものとなっている。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約24億円。新興市場上場案件としては、軽量級とは言いつらい規模。ただ、既存株主にベンチャーキャピタルはおらず、発行済株式のほとんどを経営陣が保有していることへの安心感はある。

(小泉健太)

■ 類似企業

オロ(3983・マザーズ)	予想PER17.0倍 (仮条件上限)
プロシップ (3763・東証2部)	予想PER14.0倍
アイ・ピー・エス (4335・JASDAQ)	予想PER16.9倍

■ 引受証券

野村証券、極東証券、SMBCフレンド証券、松井証券、マネックス証券、SBI証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年12月期(実績)	3,053	—	677	—	452	—	150.9	0.0
16年12月期(実績)	3,375	10.5	705	4.1	461	2.0	153.7	0.0
17年12月期(会社予想)	3,682	9.1	664	▲5.9	460	▲0.2	121.8	0.0

※決算期変更により14年12月期は9カ月の変則決算。
16年12月末に株式分割(1株→5,000株)を実施。15年12月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年12月期	600	1,440	1,058	90	351.1	73.1	14.3
15年12月期	600	2,215	1,496	90	497.7	67.4	35.6

※14年12月期、および15年12月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	川田 篤	1,800,000	60.00
2	日野 靖久	965,000	32.17
3	藤崎 邦生	100,000	3.33
4	信太 孝一	50,000	1.67
5	大下 真	25,000	0.83
5	佐伯 賢司	25,000	0.83
7	角 昌祐	15,000	0.50
8	角 晃子	5,000	0.17
8	廣瀬 彰	5,000	0.17
8	村上 志傑	5,000	0.17
8	森 秀格	5,000	0.17

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	川田 篤
専務取締役 管理本部長	日野 靖久
取締役 ビジネスソリューション事業本部長	藤崎 邦生
取締役 国際事業本部長	信太 孝一
取締役	上 岳史
常勤監査役	鈴木 誠一
監査役	廣岡 穰
監査役	大 毅

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。